

## 2014 年度海洋気象学会第 2 回例会開催報告

2014 年度の第 2 回例会が、日本気象学会関西支部第 1 回例会及び大阪管区気象台近畿地区気象研究会と合同で、2014 年 12 月 17 日に大阪合同庁舎第 4 号の大阪管区気象台会議室において開催されました。気象台、大学、研究機関を中心に約 40 名の参加がありました。

合同例会としては、セッション 1 は神戸大学の大澤輝夫氏の座長で海洋気象学会から 3 題の、セッション 2 では京都大学の向川均氏の座長で日本気象学会関西支部から 8 題の、それぞれ一般講演の発表が行われ、予定時間を超過する熱心な討論がなされました。海洋気象学会からの 3 題は、いずれも船舶による観測データを取り扱ったものでしたが、海上風の補正、北陸沿岸での海潮流の解析、航行船舶が排出する温室効果ガスと様々な内容でした。また、今回の合同例会では、奈良県立奈良高等学校の生徒による発表もあり、若い芽が育っていることを感じることができました。

なお、発表終了後、海洋気象学会「海と空」編集委員長の加納理事から、「海洋気象学会からのお知らせ」として、来年度末で解散することから、従前の活動を今年度末で終了することと、これまでの機関誌が国立国会図書館で検索閲覧が出来るようになることなどの報告がされました。

今回の例会をはじめ、これまでの合同例会に関して、会場の手配や準備、例会の運営についてご協力をいただいた日本気象学会関西支部の関係者のみなさま、大阪管区気象台職員のみなさまに対して、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

13:00 ~ 13:05 開会挨拶 日本気象学会関西支部長 上垣内 修  
13:05 ~ 13:10 説明事項 日本気象学会関西支部幹事 関野 裕功

一般講演 1 題 20 分(発表 15 分 + 質疑 5 分) \* は発表者

セッション 1 (13:10 ~ 14:10) 座長：大澤 輝夫(神戸大学)

- (1) 船上計測風速の補正に関する基礎研究  
塩山 昌志(神戸大学海事科学部)\*・林 美鶴(神戸大学内海域環境教育研究センター)
- (2) ADCP 観測による富山湾から佐渡海峡にかけての海潮流調査  
千葉 元(富山高等専門学校商船学科)\*・小関 修治(富山高等専門学校海事システム工学専攻)・道田 豊(東京大学大気海洋研究所)・橋本 心太郎(富山高等専門学校練習船「若潮丸」)
- (3) 航行船舶での排ガス中温室効果ガス濃度の実測  
林 美鶴(神戸大学内海域環境教育研究センター)\*・柳 東勲(海上技術安全研究所)・黒田 博之(神戸大学海事科学部)

セッション 2 (14:20 ~ 17:20) 座長：向川 均(京都大学)

- (4) 生物季節観察情報の年平均気温と季節進行指標による回帰分析 - 桜開花日とつばめ初見日 -  
草薙 浩(京都ウェザー研究会)
- (5) PM2.5 が天気を変える ~ ダイヤモンドダストが明かす降水の新要因 ~  
福山 紘基\*・一見 晴\*・岡田 小夏\*・岡田 友輔\*・北川 藍\*・板谷 翔馬\*  
(奈良県立奈良高等学校)

15:40 ~ 15:50 話題提供 前田 祐作(奈良県立奈良高等学校)

- ( 6) 大阪府における大雨発生の必要条件について  
山本 陽子\*・三宅 里香・今野 暁・松下 浩則(大阪管区気象台気象防災部  
予報課)
- ( 7) 高解像度レーダーデータおよび数値実験による局地豪雨の発生機構に関する  
研究  
井岡 佑介(京都大学防災研究所)
- ( 8) 熱帯季節内振動に対する冬季中高緯度大気の応答特性  
山田 賢(京都大学大学院理学研究科)\*・向川 均(京都大学防災研究所)
- ( 9) 竜巻様渦の遷移に関する数値実験  
林 悠平\*・竹見 哲也(京都大学防災研究所)
- (10) 日本付近の台風の発達傾向と発達・衰弱事例における大気海洋環境場  
中野 貴史\*・石川 裕彦(京都大学防災研究所)
- (11) プラネタリー波群速度を用いた成層圏突然昇温の励起源に関する解析  
上田 学(京都大学大学院理学研究科)\*・向川 均(京都大学防災研究所)

17:20 ~ 17:30 海洋気象学会からのお知らせ 海洋気象学会理事(「海と空」編集  
委員長) 加納 裕二

17:30 ~ 17:35 例会閉会挨拶 海洋気象学会理事 永井 千春

17:15 閉会